

# 社会科学系大学の基本条件

——岡田俊平教授の古稀記念に寄せて——

高 垣 寅 次 郎

この一篇は、古書文献の蒐集もそれ自から学問研究の一部分であり、社会科学の研究にとっては、充実した図書設備は、欠くことのできない大学の必要条件であるとの見地から、それらに関連する若干の雑話を思い浮べるままに随想的にまとめたものである。たまたま岡田俊平教授の古稀記念号の刊行に際し、教授が図書を愛し、文献の渉猟を怠らないことに想い到り、この一篇を認めて慶賀の微意を表すことにした。内容はおよそ次のような順序で述べられている。

- 一 社会科学の研究方法
  - 二 典型としての一橋大学
  - 三 成城大学の進むべき道
  - 四 岡田俊平教授の研究業績
- 社会科学系大学の基本条件

およそ学問の研究については、その性格に応じて適合した方法があり、すべて一律に同じような方法がとられるべきものではない。先ず自然科学について見ると、その研究対象は具体的な現実の諸現象と結びついているが故に、現実の現象をそのままにモデルとして再現させて見たり、或いは一定の条件を換えることによって生ずる結果の差異を観察し、それによって現象の生滅または変化を現実にかめることができる。即ち自然科学においては、精密な機械或いは巨大な実験設備を利用して、正確に特定の現象を生起させ、現実と実験との関連を検証することができる。自然科学には研究方法の上にこのような便宜があるが故に、研究に正確性をもたせ、十九世紀中葉以降における長足の進歩をなし遂げさせたのであった。

それに較べると、社会科学や文化科学にあっては、社会に起伏する複雑な現象をとらえて、因果関係を検証することができない。或る原因により或る条件の下に、特定の結果が生ずるとしても、実験によってそれを確かめることはできない。社会に生滅する類似の現象に、ある程度の規則性が見られるとしても、自然科学の対象の上に現われるような正確さはそこには見出されない。自然科学と社会科学との対象の上には、このように厳密な差異がある。

しかし、歴史的研究者が文献に見出される資料により歴史的事実を詮索して、その間に因果関係を究明しようとするところがある。それは文献の間から思考によって実験に似た過程を見出そうとすることである。それは他人によって現実にされた行動の中から、歴史的事実についての因果的関連を尋ねようとするに外ならない。いわば

文献によつて事実を探ぐることは、精密さは劣るとしても、それは思考のなかで実験的事実と見られるものを追跡することである。故に若し、或る与えられた条件のもとで、或る現象が繰り返して現われるとするならば、そこには或る因果関係が成り立つものと見ようとするのである。

最近諸科学の研究に数学の方法をとり入れることが、次第に多くなってきた。経済現象が数量に関連するものである限りは、それを数学的な問題として取扱うことは自然である。しかし経済学は数学の一部分ではなく、それ自から固有の性格をもつ学問である。数学は経済理論を展開するための便宜の手段として利用されているのであって、経済学には量をはなれた質の問題がある。

一九世紀の末から二〇世紀の初めにかけて、珍らしくも三人の経済学者(Simon Newcomb, Edwin W. Kemmerer and Irving Fisher)が、経済流通の方程式を立て、その等価関係の成立することから、ひいて貨幣数量の増減から諸価格の騰落を導くべきことを主張した。然しそのためには、等価方程式の成り立つことのほかに、別にそれを証明する根拠がなくてはならない。ケムメラーはその間に限界効用の理論を援用しようとした。フィッシャーは、貨幣の側は独立変数であつて従属変数ではないという前提を立てた。

複雑した経済諸現象間の関連を明かにするために数学的方法を借りることは、多く行なわれている。数学は精密な論理を表現する抽象的形式であるからである。複雑な諸現象の統計的取扱ひによつて、一般的傾向を導き出すことも多く行なわれる。経済学において数量が問題となる限りは、その助けを借りなければならぬが、その援用のみで解決されることではない。

経済理論の研究に数学的方法を利用することが、最も適當であるかどうかの問題は、一般的に断定されること

ではない。研究の厳しい競い合いによって、自ずから合理的な方向に進んで行くことであろう。

以上に述べたように、学問の性格によってその研究方法も異なるべき可能性があり、またそれが効果のあることである。従って何れの大学について見ても、そのもつ学部性格によって、そこに用意される研究設備は異なるざるをえない。自然科学や技術工学の研究については、整備された実験設備を欠くことをえないが、社会科学や文化科学については、内容の充実した図書館とその利用設備が重要である。しかもそれは決して容易に出来るものではなく、関係者の永い間の理解ある努力と協力によって、はじめて成就されるものである。

## 二

一 昨年の秋、創立百年の式典を挙げた一橋大学は、今や社会科学の総合大学として遜色を見ない、研究教育の施設となっている。特に注目すべきものの一つは、そこに附置されている充実した図書館の設備である。内外の貴重文献を集めて蔵書冊数はゆうに百万をこえているが、その量の上から見ると、さらにその質の上で誇るべき内容をもっている。ことに大学昇格を意図した頃即ち明治の末期から、佐野善作先生は図書館の充実を以て大学存立のための必要条件となし、特志家や校友に訴えて多くの特設文庫を造り、図書館内容の充実を図った。

その中でも文献蒐集家として世界的に知られていた経済学者カール・メンガー (Carl Menger) の文庫、法学者オットオ・ギアケ (Otto v. Guericke) の文庫が続いてその蔵書に加えられたことは、大学関係者に大きな希望をもたせたのであった。

一橋大学の関係者には幸いに蔵書家が多く、その専攻に従って文献を蒐集し、後にそれを大学に残すことを慎

例のようにしていた。保険に関する文献を内容とする村瀬春雄博士文庫は、貴重な蒐集として社会的にも大きな期待をかけられていたが、関東大震災に連れて起った火災のために、神田一橋の研究室で多くは惜しくも灰燼に帰した。これは先生の逝去のためとその後事実上補充困難のために、不幸にしてその復旧を見ていない。文明史を中心とする三浦新七先生の文庫と哲学を内容とする左右田喜一郎先生の文庫とは、共にたえざる熱意をもって集められたものであって、一度その自宅において戦災のために焼失したのであったが、その後蒐集が続けられ、今すでに一橋大学図書館の内容に大きな役割を果たしている。

大きな文庫であったが現在一橋大学にはなく、私の記憶に残っているのは、福田徳三先生の文庫と内藤章教授の文庫とである。福田文庫は中野区本郷の先生の居宅にあって、当時われわれ経済学研究者の齊しく羨望したものであった。先生の逝去後一橋大学に引取られるという話もあったが、内容において既存のものと重複するところが多いというので、その話は取止めとなった。これはその後、大阪市立大学に大きな期待をもって引取られて行ったが、連合軍大阪進駐の際、同大学校舎が急遽明け渡しを要求され、その移動や混乱のために、貴重な図書が散逸したものが多かった、と聞くことは甚だ惜しいことである。私は大学設置審査のさいその実状を見て、学界のために大いにそれを遺憾とした。

内藤教授は趣味がひろく図書の蒐集を楽しむ人であった。第一次大戦後のドイツのインフレーションに際し、興味も広く収集されていた。関東大震災の当時、神田一橋の研究所に蔵置されたこの文庫が災害を受けなかったのは、幸いであった。教授の逝去後、文庫は法政、専修、小樽商大等の大学に分けて引き取られたようであるが、その配分の内容方法など私は知らない。その後、重要な金融に関するものが法政大学に、政治学等の経済学

## 社会科学系大学の基本條件

以外の社会科学に関するものが専修大学にあったことは、大学設置審査のとき私も見て、適當のところに収まっているのを、親友のために喜んだことであつた。

本年五月、大塚金之助教授の逝去にともない、その苦心の結果である蔵書のなかばは一橋大学に收容されることになつたが、すでにこれまでの蒐集の中の日本の文献一万二千冊は、ベルリンの国立図書館に寄贈されている由である。教授は多年、経済学史および社会思想史に関するパンフレットを対象として蒐集されていたが故に、特色のある文庫として研究者のために甚だ貴重なものといわねばなるまい。

さらに一昨年一橋大学では、ニューヨークの古書店バート・フランクリン (Bart Franklin) の在庫書をとりとめて收容することになつた。現在整理の過程にあり、図書目録の作成にもなお年月を要することであろう。その内容を検討すれば、既存のものと重複するものも多いことが予想されるが、量質ともに著しい増加であつて、一橋大学図書館の内容の充実の上に大きな段階を画することになる。

一橋大学の図書館が上述するように、その内容を充実して研究者の利便を拡大し、社会科学大学としての特徴を遺憾なく發揮しうるようになったことは、誠に注目すべきことである。然しそれは決して一朝にして到達したことなく、多年にわたつて撓まない、大学当局ならびに関係者の努力と協力によつて、はじめて成就されたことであつた。大正一五年、東京商科大学に附属図書館の制度が定められたとき、私は初代の館長に兼補されたから、昭和一年にその職を退くまでの間、多大の興味をもつて熱心にその事務を担当した。それは私にとつては、単なる行政的な事務ではなく、それ自らが学問研究に通ずることに思われていた。書物に仕える者は文化に仕える者であり、文化に仕える者は神に仕える者である、とかいうドイツ哲人の言葉は、何時も新しく私の心

に蘇える。

### 三

成城大学は、これまで経済学部と文芸学部と二つの学部をもつに過ぎなかったが、今春学園の創立六十周年を記念する事業の一環として、法学部が新設されることになって、ここに三学部をもつ社会、文化系大学としての発展にその歩を進めることになった。

世間一般の通念としては、文化、社会、自然の各学部を包容し、それらが互いに協力して学問の研究と教育を促進しようとする総合大学を、いちおう理想とするのであるが、必ずしも総合大学の形式に憧がれることなく、大学の名称にさえこだわらず、内容の充実に誇りをもって、特色のある発展を遂げたものが、内外にその例が少なくない。それは大学として肝心なことは、その性格に応じた研究設備を整え、それを利用して研究と教育の成績を挙げる、すぐれた教職員と学生をもっていることであると見るからである。

卓越した総合大学が出来上がるためには、物心両面にわたってすぐれた設備を必要とし、特に自然科学の部門においては、研究設備のために要するものが甚だ多い。すでに二十年近く前のことになるが、私は或る篤志家の寄附によって、特色のある工科大学を設立すべき計画を立てることを委嘱せられ、学識経験に富む数名の人びとと共に委員会を作つて、調査立案に当たつたことがある。詳細に検討した結果、それには諸種の困難を伴うことが明らかになつたので、予定の計画を変更して大学設立の希望を捨て、他の効果的な学術振興の方法に転じて、今すでに勝れた成績を挙げている。自然科学系大学の設立に尠なからぬ困難のあることは、そのとき強く経験し

たのであった。

成城大学がこれから進んで行く道は、何れに求めるべきであるか。沢柳理念に導かれた個性尊重の教育は、初等教育の段階において最もよく適合して、その成果を挙げるのであった。それが中学高校の一般教育の段階を経て、大学の課程に進み専門教育の段階に達すると、両者間の接続の上に或る段差の存することを思わざるをえない。即ち専門教育の課程にあつては研究の自由には限界があり、天分に從つて伸びんとするものに、その求める学部学科がすべて用意されているとは限らない。これまで多くの優秀な高校卒業生が、止むなく成城を去つて他の大学に転じ、そこで大いに羽翼を伸ばしたのは、誠に惜しむべき自然の経過であつた。

経済学の研究に数学を利用する方法が、次第に盛んになってきた今日の情勢の下にあつては、数学的才能に恵まれたものが、経済学の分野に進んで、大いにその驥足を伸ばしうる可能性は甚だ多いことである。また統計学、経営学等の領域において、自然科学的才能を働かせる余地は決して少なくない。文科と理科という如き旧概念に從つて、学問研究の体系を簡単に分断することは、今日の状況に適應することではない。かつて特定の一学科と考えられたものが数個の学科に分解され、或いはかつて異質と考えられた学科に転化している状況である。学部学科の構成は、学問の発達に連れて反省されるべきものである。

成城大学図書館の蔵書冊数は、現在二〇万に上ぼるといわれているが、このような数字を正確につかむことさえ、事実上甚だ困難である。これはもとより大学設置基準の要求を超えるものではあるが、一般に認めて一応の必要を充たす限度を示すに過ぎず、大学における研究の必要に對して十分であるという保証はない。これは大学における研究活動の状況、研究者の要求、大学理事者の判断等によつてきめられることである。



成城大学図書館の蔵書はまだその量において誇るべきものではないが、特に記してみたのは、成城には柳田文庫をはじめとして幾つかの記念文庫があり、また或いはこれからも同様のものを誘致する可能性が、思われることである。

柳田国男先生は日本民俗学の創立者として、多くの研究者を育成せられ、斯学の興隆を今日見るが如き状況に導かれたのであった。その功績は内外の斉しく認めるところであって、日本学士院および日本芸術院の会員であった。先生はこの学問の未拓の境地を伐り開きながら、研究文献の蒐集に努められたが、その量は積って二万点を超えるに至ったという。それらは何れも新興斯学の貴重な資料として、研究者が利用を熱望するものであった。先生はこの文庫を成城大学図書館に寄託せられ、研究者のためにその扉を開いて利用せしめることにされたが、昭和三十七年八月先生逝去の後、遺志にもとずいて、その蔵書資料を挙げて成城大学に寄贈されることになり、大学の大きな誇りとする貴重な文庫となった。これを基盤として行なわれる多くの研究は、今後の大学の研究方向を特色づけるものとなって、大学の学問的内容を支える太い柱となるであらう。大学における研究施設の充実、このように大学にとって重要な意義をもつことである。

成城大学にはなおこの外に、宗教心理学の権威であった故文学博士堀一郎教授の文庫が寄贈されている。冊数一万ということであって、これはやがて柳田文庫と共に、本学蔵書の重要な存在となって、研究者の渴望を充たすことが期待されるのである。

古くして歴史に富む大学とは比較するを得ないが、大学図書館にはなお、ナトルプ (Paul Natorp) 文庫 (四、四五四冊)、辻高衡文庫 (三、一三五冊)、藤井健次郎文庫 (二、〇六三冊)、沢柳政太郎文庫 (一、〇二五冊)、宮本和

#### 社会科学系大学の基本條件

吉文庫（七〇〇冊）などが収蔵されている。それらはいずれも手沢本の域を超え、哲学者、教育学者、思想家などの親しんだ文献であるだけに、その跡を迎えればことに心を惹かれるものがあるであろう。たとえ細やかなものであろうとも、成城の前途を担うものが、これを基礎にして心をあわせ、年を積み世代を重ねて撓まないならば、やがては特色のある研究設備となつて、成城の学問を発達せしめる根底とならしめ得るであろう。それは永い間の不断の努力と協力によつて得られる成果であつて、それでなくして得られるものではない。それは決して架空の望みではなく、確実に成就することのできる願ひである。

#### 四

畏友岡田俊平教授は、古稀を迎えたために今年三月、多年勤続の成城大学経済学部を離れることになつた。教授の担当科目は近世日本経済史であつたが、致々として史料を探ぐり、正確に史実を質して飽くことを知らない。早稲田大学に収蔵される貴重の大隈文書を丹念に渉猟して、すでに相応の研究業績を挙げており、なお多くの成果を今後に期待することができるのである。

岡田教授は昭和五年東京商科大学を卒業したが、学問の研究に一生を捧げることがを念願してなお研究科に残り、後招かれて大倉邦彦氏が私財を投じて設立した、大倉精神文化研究所の研究員となつた。これがその後、国立国会図書館分館となつたために、教授もそこに転じたが、昭和三〇年四月、招かれて成城大学経済学部教授となり、ここに残年を託する地を得ることになつた。

早稲田大学に収蔵される大隈文書が、明治初期日本経済史の研究に甚だ貴重な文献であることは、私のつとに

留目したことであった。それは、明治維新から明治一四年一〇月の政変によって、大隈重信が悲憤を抑えて台閣を去るに至るまで、政治の中心にあって、その枢機を握っていたにも拘らず、その豊富な関係文書は大隈家の倉庫にふかく秘蔵せられて、なお未だ利用されること少なく残されていた。

明治維新の変革にともなうて、日本の金融制度は急速に変転を遂げ、注目すべきいろいろの問題を提起した。従つて維新以後の金融史に関しては、すでに著書論文は数多く出ているが、利用される資料は多く一方に偏し、大隈文書の如く重要なものを探求して研究することを逸している。既知の資料に偏して新しい文献を顧みることせず、内容の新しいさを考えないのに大きな意義は見られない。埋もれた文献を掘り起し、顧みられなかった資料に新しい光をあて、新しい事実を明らかにしてこそ、真に意味のある歴史的研究はできるのだと思う。

このような立場に立つて見るとき、明治初期の政治経済について、大隈重信の占める地位ならびにその関係文書は甚だ重要であった。維新以後大隈重信は外国官副知事、大蔵大輔、大蔵卿、参議などとして、日本の財政金融を掌理する枢要の地位に立っていた。その当時の官庁書類、往復文書など二二、〇〇〇点に上る莫大な資料が、大隈文書として早稲田大学図書館に収蔵されて、それらの多くがまだ十分に利用されないで、残されているのである。

新制大学令による大学院の課程が、早稲田大学に設けられるようになってから、私は、政治経済学部経済学科および商学部商学科において、金融論を担任することを託された。私はそれを誠に恵まれた機会と考え、研究心に富む優秀な学生を促かして、せっかく収蔵される大隈文書を利用し、明治初期日本経済史の研究に向わしめることを勧めた。然し不幸にしてその努力は実のらなかった。若い学生にとっては、歴史的研究はすでに過去の事

### 社会科学系大学の基本条件

実として興味が薄い上に、毛筆で書かれた文書は外国書と同じ距たりを感じさせるものと見られた。早稲田学園の有為な青年学生が、何れの日にか、この重要な研究に進んでくれるものか、私はそれを待ちたいと思う。学生を引きつけ得なかったかわりに、岡田教授の研究心をそこに導くことができたのは大きな幸いであった。

大隈文書は今や岡田教授にとって、離れがたい研究文献となっているようである。その中から、すでに多くの明治初期経済特に貨幣金融に関する研究成果が同君によって挙げられたが、さらに多くの業績が期待せられるのである。私は教授の不断の努力に敬意を表し、その大いなる今後の収穫を祈って、この記念論集に寄せる蕪雑の一篇を結びたい。(昭和五二・八・一五)